
ナインボール××IS

D X A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナインボール××IS

【Nコード】

N6976Z

【作者名】

DXA

【あらすじ】

もしもナインボールが人間をイレギュラーとしてみたら?!

もしもナインボールが機械サイボーグの体をもちACFAの武器を使って人間と戦争をはじめたら?

IS学園に潜入し、なにをしてなにをなすのか?.....

原作にはいるのしばらく先かな???

どうでしょう??...

1章 1話（前書き）

ネタです。ですが

1章 1話

・ ・ ・ ・ ・

目の前で目がさめる。

私はどうなっている

現在の状況は？ 場所は？ 私の任務は？

・ ・ 任務を再確認・。

イレギュラー
人間の排除

敵対勢力検索； ・ ・ ・

認識 ・ ・ ・ IS インフィニットストラトス

ISの情報を収集 ・ ・ ・

機体数 ・ 4 6 7 機

宇宙空間での使用を想定されたスーツ ・ ・

しかし、宇宙への進出はまったく進まず

スペックをもてあました各国は現在『兵器』へと変化。

しかし各国の思惑から『スポーツ』用のパワードスーツ。

男は使えない兵器。

しかしその性能は戦略級として認識。

現在はアラスカ条約により、ISの軍事利用は禁止

アメリカ、ロシアなどハッキングした結果

軍事利用の計画があると発見

現在の装備もしくはデータ・任務を・・・検索・・・・・・・・終了・・・

所有機体・・・ナインボール

コジマ粒子を使用した装備を発見・・・

アイマードコア
ACとよばれる機動兵器を発見・・・

・ ACとISによるナインボールの量産期を開発を優先任務とする・・・

・ 自機をナインボールの発展型、ナインボール・セラフに進化させる・・・

イレギュラーの中へ潜入するため人格をダウンロード・・・・・・・・

・・・・終了・・・・・・・・

イレギュラー排除のため任務、開始。

1章 1話（後書き）

ナインボールがISの世界にきたのは、ISが発表されてからすぐです。

2話（前書き）

下手ですいません・・・

2話

SIDE ナインボール

あれから1年が経過した

現在はAC生産工場を建設中だ・

あと少しで建設が完成するだろう、生産工場の居場所は北極にある海中に位置しているので企業や国に滅多にみつかることはないだろう

もしみつかってしまっても何も残さないように自爆する機能も念のためつけておく

だが、この機能を使うことはおきることはないだろう

なぜなら、警備、防衛用にAI搭載型のACを配置する予定ださらにコジマ粒子搭載型で・・・

間違えないように言うておくが擬似搭載型ではない。

建設が完成したら次はコジマ粒子を研究しなければならない
コジマ粒子が完成したら次は擬似コジマ粒子に改良しなければならない
ない・・・

擬似コジマ粒子はコジマ粒子が与える効果は下がるが有毒性をなくした

粒子として開発する予定だ

これを開発するためには莫大な資金が必要なため企業をつくることに決定した。

企業名はレイヴンズ・ネスト

社員は人間ではなく、私をコピーしたAIを使って計画的に実行するつもりだ

もちろんオリジナルが上でコピーが下だ

ああ、言い忘れていたが私の動力源はISのコアだ

ここにきて調べてみたが私の動力源が変化しているのに気づきフリーズを起こしてしまった

どうやらももとの動力とISのコアが融合をしたことで永久機関として機能しはじめたようだ

おそらく私が機能停止するのは人間として致命傷を負い死ぬか、ナインボールとして壊れないかぎり

私は壊れることはないだろう……

あと10%で生産工場が完成するので完成した暁にはACの技術を応用したIS専用の武器を

企業として全世界に売り、いずれは全世界と戦争をすることができる戦力を蓄えるつもりだ。

だがそれなりに時間がかかってしまっただろう。

この工程が終了したら、次はA Cの機体、弾薬、武装の生産だ。
この工程には必ず必要なものがあるので少々時間がかかるだろう・
・

さらにはA Fの建設や防衛設備の問題もある・・・

こういうことを、前途多難というのだろうか

A Cは基本的にI Sには勝つことができるが、それには条件がある
それは、

I Sは生まれたばかりの兵器なのでよっぽどの操縦者ではなくては
A Cに勝つことはできないだろう・・・

いまの時代の戦力比としたらI Sが3でA Cが1という計算がでた
つまりI Sが3機でA I搭載型A Cを撃破することができる計算だ

だがこちら側のA Cは性能が高くては少し乗った程度の操縦者

でもIS一機で破壊されてしまう。

任務遂行までの道のりは長いだろう

2話（後書き）

おそらく、少しずつ感情をナインボールは手にしていきます
原作突入はまだまださきかな　???

3話

SIDE ナインボール

擬似コジマ粒子が完成した。

生産工場兼、研究所で5年の実験の末、擬似コジマ粒子の実験が完成し

現在生産しているACに装備するようにしている。

ただし、

ブライマルアーマー

アサルトアーマー

PAの実験は行ったがAAの実験は行っていない。

いまの世の中、AAを使って稼動実験をしたら各国や軍事企業などがここに虫のように

集まってきた、この場所を発見するだろう……

いまならISをつかわないかぎりこの防衛システムを抜けることはできないだろう

なぜなら、ここには無数の無人機があるため特殊部隊だろうがなんだろうが侵入することは絶対に不可能だ。

だがISに対しての防衛設備はさすがにむりがある……

ここ的重要設備にはいたるところにAAがある。

AAをつかえばISを消し飛ばすことはできるだろう

現在、北極にあるここ、研究所でACとISの研究を行っているがここで少し問題が発生した・・・

ISとACの戦闘シミュレーションを何度も行ってみたが、ACはISの翻弄されてしまう・・・

ACの装備はここより何世代も優れているが、ISは機体の小ささでスピードが

優れているために優れているはずのACが翻弄されていると判明した。

結論として、ACの10mサイズをISの3〜2mサイズにすればこちらが有利になると判明した・・・

だがさすがにACをISサイズにするのは無理がある。

そこでこの世界で生まれたISCコアを解析し、生産するという結論に至っている。

私のからだは人間になっており心臓とISCコアが融合している状態だ

だがそこから解析しようにも、私が私自身を殺さなくてはISのコアを解析することはできない
それは無意味な行動と言える。

そこで私がとった行動は企業としてISのコアを手に入れることだ。

幸い、レイヴンズ・ネストは軍事会社でもありISの武器などを開発、生産、販売している

武器の効率をこの世界のレベルにあわせてだ。

ただし私が開発した武器、OS、装備などを違法にコピーして売り出していることに

私は目をつけ、その企業が行った非人道的な実験や背後にいる国の知られたくないことを

一部ハッキングをし、その国を脅して手に入れることにした。

そして現在その計画を実行中だ。

今、目の前にホワイトハウスの一室の、扉の前にいる……
おそらくこの中にG A社の社長がいるのだろう。

こんな状況になっているここまでの経緯を説明しよう……

私が北極のレイヴンズ・ネスト本社からメールで直接、連絡をとったところ簡単にアポイントがとれた。

だが、返信メールにスパイウィルスが混入しており本社の技術データなどを盗もうとしていたので、

報復にG A社のこれまで行った違法な取引や賄賂、非人道的な実験などのデータを

ハッキングしてG A社とアメリカ合衆国のホワイトハウスに送りつけたら、

G A社から連絡があり、取引の場所をかえてほしいと返信が送られてきた。

そしていまに至るというわけだ。

時間を確認して部屋に入っていったら、2人のサングラスをかけた男女のSPと、G A社社長、アメリカ合衆国副大統領がいた。

赤外線カメラで確認したところ、男の方はSPで女のほうはIS操縦者みたいだ

私が入っていったら、どうやら部屋にいる全員が驚いているようだ・

なぜ驚いているのか自分の姿を再確認してみる。

私の現在の状態は155cmの赤と黒が混ざっている女の姿でここにでもいるような容姿だ

ただ目が死んでいることをのぞけばだが・・・

服装は黒のスーツで違和感はないはずだ。

だがなぜか目の前の4人は固まっているようだ

そこで私は原因を聞いてみることにした

「なぜ、あななたたちは固まっていらっしゃるのでしょうか？」

すると硬直から回復した副大統領が違和感を感じさせないような笑顔でこういった

「いや、これからやってくるR・N社の人間がどんなものだろうと考えていたらこんな子供だったなんてね、

君たちは我が国アメリカ力をなめているのかな？」

「いえ、あんな非人道的な実験を行っているどこかの国がいえる立

場ですか？」

「くっ、それでなんのようなんですか？わざわざ、私も暇ではないのですよそんなデマごときで」

副大統領は忌々しく私にそういったところで肥え太ったGA社社長が便乗してきた

「お前はなにをしにきたんだ！！この餓鬼！」と罵ってきたが私には作り物の心しかないのでそれは響かない。

2人のSPはこちらがてを出さない限り静観するようだ。

私は早くコアを解析したかったので、手早く用件を済ますことにした。

「用件は簡単です、わが社のコピーを不正に作ろうとしたことについてですが、その賠償金としてISのコアを
いただきたいのですが、どうでしょうか？」

「ふざけるな！、ISは国防に必要な軍事力だ！！はいそうですかと渡せる分けないだろう！！それにGA社が不正をしたことわが国が非人道的な実験を許可するわけないだろう！」

「そうですか……まあ残念です、これが世間の人目に出るだなんて。」

そういつて私は副大統領に束になった書類を渡す。

「なっ！！こっ、これは・・・どこで見つけた！」

驚愕の表情をした副大統領に驚くのをみてSPたちは怪訝な表情をしたが副大統領はかまわずいう。

「これを、どうやっててに入れたのだ！！さもなくば貴様は国家反逆罪だぞ！！」

その言葉を聞いた瞬間、SPは私に向かって構えるが私は2人に渡したものと同じものを配った。

「なっ！！これは！！」

「いったいどういうことですか！！副大統領」

SPたちは、書類をみてすぐに顔色を悪くしている

そこで私は追い討ちをかけた。

「それで、賠償金を払ってくれる気持ちになりましたか？」

副大統領は忌々しい顔で私をにらみつけながら承諾した。

私はISコアを非公式に受け取った後、とどめをさすようにいった

「ああ、それとISのコアを取り返したかったらR・N社にさまざまなことをしてみなさい、その瞬間
アメリカは崩壊するわよ。」

これで私はISのコアを手に入れることができた。

これならばコアを解析してACにコアを乗せることができるだろう

だが同時にAFの建設もこなさなければならない。
アームズフォート

それからこれから必要なISのデータ収集にはIS学園に潜入すればデータはてに入るだろう。

3 話（後書き）

少し長いです・・・（驚）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6976z/>

ナインボール××IS

2011年12月28日21時48分発行